

漁海況速報

3-No. 35

茨城県水産試験場
漁業無線局

令和3年11月26日～12月2日

電話 (029) 273-7911

FAX (029) 270-1480

<http://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/nourinsuisan/suishi/index.html>

【海況図説明】

1. 黒潮は、犬吠埼の南東35マイル付近を北東に流れ、
36°20'N 142°30'E付近を流去している。
2. 本県沿岸域は、15～20℃台の水温となっている。

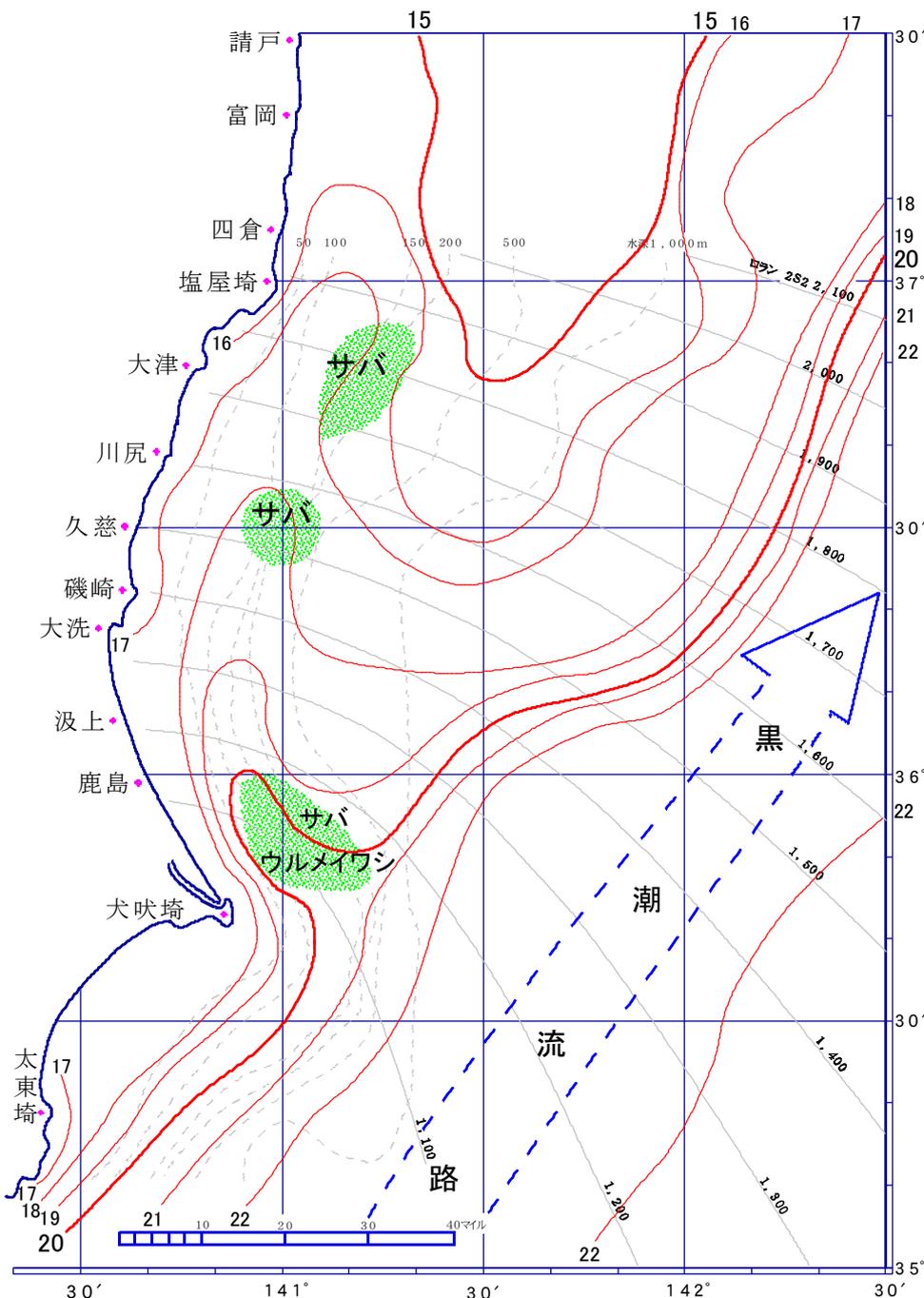
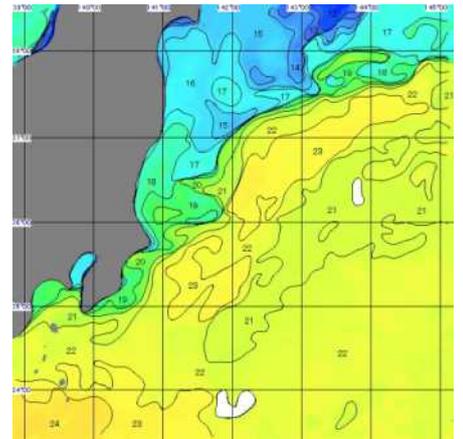
那珂湊定地水温(℃)

日	令3	令2	平年
11/26	16.4	16.4	15.7
27	17.1	16.0	15.6
28	16.2	16.0	15.5
29	15.3	15.6	15.4
30	15.3	15.5	15.3
12/1	16.0	15.3	15.1
2	15.7	15.0	15.0
平均	16.0	15.7	15.4

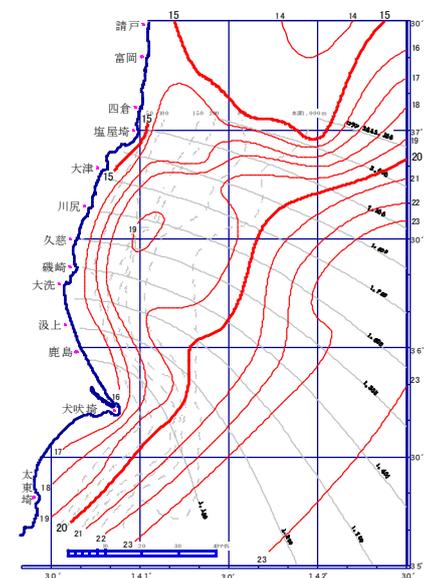
30年平均: 1991～2020年

令和3年11月26日～12月2日

【1週間合成衛星画像】



【海況図】



令和2年11月27日～12月3日

【海況図】

漁況の特徴

3 - No. 35

属地、単位＝四捨五入

11/25～12/1

◎

まき網

(漁獲は1投網当り)

サバ・・・気仙沼の東北東20マイル付近で1トン(1ヶ統)、塩屋崎の東南東15マイル付近から川尻の東20マイル付近で1～40トン、川尻の南東15マイル付近で1～10トン、鹿島の東15マイル付近から犬吠崎の東北東15マイル付近で1～90トンの漁獲。

ウルメイワシ・鹿島の東15マイル付近で1トン(1ヶ統)の漁獲。

◎

小型船

(漁獲は1隻当り)

◇船曳網

シラス・・・大津地先から高戸地先で50～60kg、日立地先で24～239kg、那珂湊地先から鹿島地先で5～385kgの漁獲。

◇曳釣り

平潟地先から川尻地先でメジ10～47kg、平潟地先から高戸地先でヒラメ6～17kg、久慈浜地先から鹿島地先でヒラメ1～60kg、ホウボウ1kg前後、マゴチ1～2kg、イナダ1～5kg、サワラ1～3kg、タチウオ1kg前後の漁獲。

◇樽流し

那珂湊地先でマダコ10～40kgの漁獲。

◇タコツボ

鹿島地先でマダコ150～400kgの漁獲。

魚種	漁法	組合名	水揚量 kg	平均単価	水揚金額 円	延隻数
シラス	船曳網	大津	250	300	74,970	5
		久慈浜丸小	2,641	585	1,544,747	25
		久慈町	2,896	565	1,637,143	24
		那珂湊	967	593	573,020	10
		大洗町	30,570	558	17,046,470	168
		はさき	40	550	22,000	
ヒラメ	小底5t以上	平潟	2,017	613	1,236,887	
		大津	246	466	114,545	
		久慈町	145	937	135,850	
		那珂湊	1,116	1,100	1,227,173	
		その他釣り	48	1,123	53,575	
		大型定置網	235	1,494	351,070	
		会瀬	44	1,076	47,775	
マコガレイ	小底5t以上	平潟	20	558	11,164	
		那珂湊	48	1,026	49,225	
イシモチ	小底5t以上	平潟	1,646	54	89,659	
		大津	18	150	2,690	
		那珂湊	39	470	18,329	
タイ類	小底5t以上	平潟	2,062	223	459,293	
		大津	50	154	7,690	
		久慈町	99	521	51,580	
		那珂湊	451	569	256,429	
		大型定置網	1,482	440	652,521	
スズキ	小底5t以上	平潟	15	513	7,441	
		那珂湊	14	722	10,320	
		はさき	50	394	19,825	
		大型定置網	15	780	11,931	
アンコウ	小底5t以上	平潟	67	642	43,011	
		大津	117	896	105,154	
		久慈町	202	801	161,750	
		那珂湊	28	1,137	31,280	
スルメイカ	小底5t以上	平潟	230	273	62,900	
		大津	(55)	2,369 (山売)	130,302	
		久慈町	180	1,204	216,770	
		那珂湊	30	979	29,370	
ヤリイカ	小底5t以上	平潟	438	412	180,600	
		大津	(116)	1,762 (山売)	204,235	
		久慈町	98	1,094	107,260	
		那珂湊	16	600	9,720	
マダコ	小底5t以上	平潟	60	304	18,210	
		大津	112	169	18,925	
		久慈町	9	133	1,200	
		那珂湊	384	609	233,771	
		その他釣り	142	941	133,143	
		タコ壺	89	1,238	110,200	
その他漁業	33	608	19,879			
ミズダコ	小底5t以上	平潟	72	170	12,217	
		大津	185	254	46,984	
		久慈町	2,221	259	574,760	
ショウサイフグ	大型定置網	会瀬	97	48	4,608	
ホウボウ	小底5t以上	平潟	360	607	218,424	
		久慈町	13	753	9,490	
		那珂湊	49	1,040	50,977	
アナゴ	小底5t以上	平潟	1,406	174	244,800	
		大津	271	399	107,978	
		久慈町	514	392	201,520	
		那珂湊	663	492	326,160	
マアジ	小底5t以上	平潟	148	137	20,343	
		大津	9	445	4,092	
		那珂湊	13	275	3,575	
		大型定置網	496	218	108,049	
サバ	小底5t以上	久慈町	13	61	814	
		大型定置網	1,050	52	54,984	
		まき網	94,809	112	10,588,756	6
		はさき	78,472	135	10,614,205	
ブリ類	小底5t以上	平潟	24	243	5,893	
		久慈町	195	151	29,490	
		那珂湊	210	132	27,835	
		大型定置網	263	178	46,763	
カマス	小底5t以上	平潟	10	181	1,813	

注 延隻数・銘柄別隻数 大津の水揚の一部は水揚げ量・平均円共に「山売」を含む

茨城県水産試験場漁業無線局

令和3年のアワビ漁況

1. 令和3年の漁模様

本県のアワビ漁は6月に解禁となり、主に素潜りで行われます。今年は新型コロナウイルス感染症拡大に伴うアワビ需要への影響が続くなかで、7月下旬から断続的に海が荒れたこともあり、延べ出漁日数は昨年よりもやや減少しました（前年比87%）（図1）。

また、今漁期の漁獲量は昨年からはほぼ横ばいの14.7トン（前年比99%）、平成24年以降では3番目に多い漁獲となりました。1日あたりの漁獲量（kg/日）は平成28年以降上昇が続いており、震災後の自主的な獲り控えや種苗放流の再開によって、アワビ資源が回復してきたと考えられます（図2）。

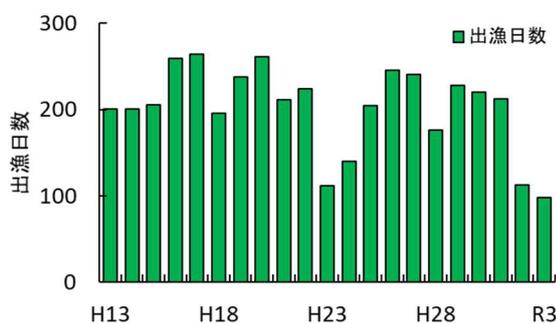


図1. 茨城県におけるアワビ漁の出漁日数.

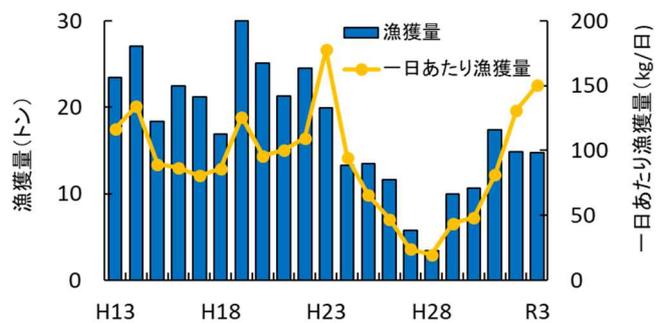


図2. 茨城県におけるアワビ漁獲量と1日あたりの漁獲量の推移.

2. アワビ資源の由来

本県のアワビ資源は天然と人工種苗（放流貝）が由来となっており、人工種苗は毎年25～30万個が放流されています。人工種苗のアワビは殻の頂点付近（若い頃の殻）が緑色で、天然貝と見分けることができます（図3）。

水産試験場では、漁獲されたアワビに人工種苗がどの程度含まれているかを毎年調査しています。昨年、人工種苗の割合は24.2%に減少しましたが、今年は39.5%と前年の約1.6倍に回復しました（図4）。なお、H27～30年にみられた低い割合（21.4～30.7%）はH23～26年に震災の影響で放流数が減少したためと考えられます（人工種苗が漁獲され始めるのは放流から約3年後以降のため）。

アワビ資源の維持・増大を図るために今後も自主的な漁獲管理や種苗放流の実施等、適切に資源を管理していくことが大切です。

（定着性資源部 古川 洋之介）

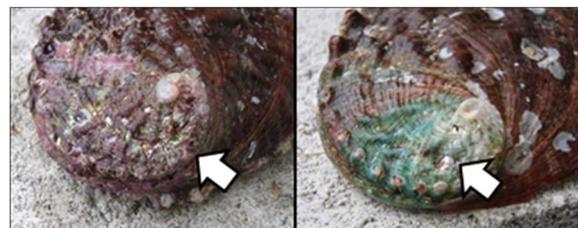


図3. 天然と人工種苗の見分け方. 人工種苗は矢印で示す殻の頂点付近が緑色になっている.

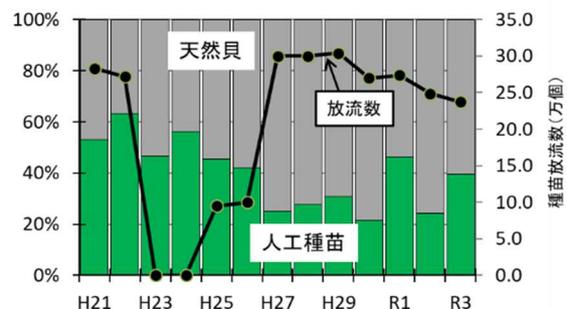


図4. 漁獲物に占める人工種苗の割合と種苗放流数の推移. 放流種苗の漁獲は放流から約3年後以降となる.

今季のマダコの来遊は遅く、漁獲量は昨年程度の見込み

1. マダコの生態と茨城県での漁業

常磐海域のマダコは、春から初夏に外房周辺で生まれ、北上暖水によって、宮城県仙台湾周辺までの沿岸各地に分散して成長します。茨城県では本県沿岸に分散した「地ダコ」と秋から冬にかけて本県より北に分散したタコが産卵のために外房に向けて南下する「渡りダコ」が漁獲対象となっています。12月から翌年2月頃までがマダコ漁のシーズンで、「たこつぼ漁」や「樽流し漁」などで漁獲され、特に鹿島で多く漁獲されます。鹿島灘で獲れたタコは“鹿島たこ”と称され、地域の特産品として知られています。

2. 昨年の漁模様

本県のマダコ漁の好不漁は「渡りダコ」の来遊状況に大きく影響されるため、過去20年間の漁獲量は13~243トンと大きく変動しています。昨年漁期(R2.9~R3.8)の漁獲量は133トンで、そのうち主漁期である12~2月にかけての漁獲量は123トンでした(図1)。これは過去20年中8位の量で、中漁といえる漁模様でした。また、主漁期の「たこつぼ漁」に注目すると、その漁獲量は109トン、1日1隻当たりの漁獲量(CPUE)は122.9kgであり、CPUEに関しては過去20年の中で3位でした(図2、漁獲量は8位)。

3. 今季のマダコ漁の予測

本県の「渡りダコ」漁には、沿岸水温(那珂湊定地水温)が15℃前後になると水揚げが始まり、10~12℃になると水揚げが増えるという傾向があります。現在の沿岸水温は16℃前後、沖合水温はより高い状況にあります(図3)。当场による海況予測では12月上旬の沿岸水温は「平年並~やや高め」としており、平年の目安となる30年平均水温は会瀬から鹿島沖では14~19℃台となっています(水産の窓3-No.19)。

一方、10月末までの他県の漁獲状況としては、岩手県から福島県では、豊漁であった昨年の約6~8割という情報があります。

以上のことから、本県への渡りダコの来遊が本格化するのには、水温が低下する年明け以降となり、漁獲量は昨年や一昨年程度の中漁になると予測します。

(定着性資源部 水谷宏太)

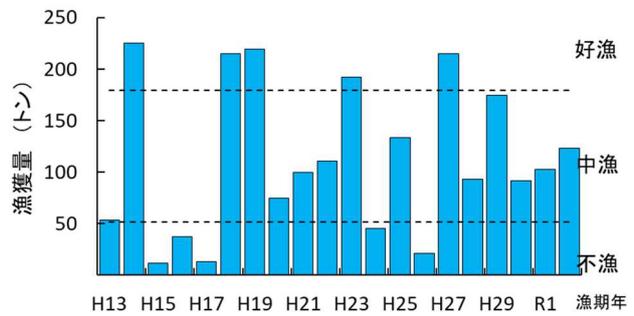


図1. 茨城県沖の主漁期(12月~翌年2月)におけるマダコ漁獲量の経年変化

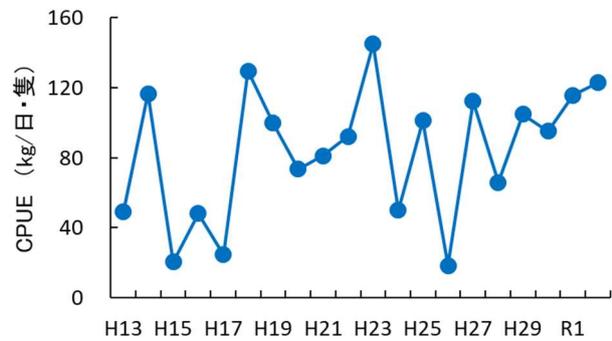


図2. 主漁期におけるたこつぼ漁CPUEの経年変化



図3. 海況概要(11月19日~25日)(出典:茨城水試漁業無線局、漁海況速報3-No.34)

【次号予告】R3.12.10 発行の「水産の窓」は『海洋観測結果』を予定しています